

ざ・ちゅうおう ぶれす

第102号 2021年11月

発行 世田谷区立中央図書館

世田谷区弦巻3-16-8

Tel 3429-1811

Fax 3429-7436



<https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

「ざ・ちゅうおう ぶれす」は世田谷区立図書館ホームページでもご覧いただけます



世田谷代官屋敷

中央図書館カレンダー

11月							12月							2022年1月							2022年2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6				1	2	3	4							1							
7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12
14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19
21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26
28	29	30					26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29	27	28					
														30	31												

開館時間

火～日 10:00～19:00

月・祝・休日 10:00～17:00

(12月28日・1月4日) カレンダー■の日

休館日 カレンダー■の日

最終木曜日(12月は第4木曜日)

年末年始・特別整理期間

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開館日時等が変更になる場合があります。
最新の開館状況については、世田谷区立図書館ホームページなどでご確認ください。

THE SETAGAYA CENTRAL LIBRARY PRESS

代官の暮らしたまち「世田谷」

今回は世田谷の歴史と文化が感じられる施設の1つとして、世田谷代官屋敷をご紹介します。江戸時代の「代官」と呼ばれた人たちは一体どのような仕事をしていたのでしょうか。

世田谷代官屋敷とは

世田谷線上町駅近くにある世田谷代官屋敷は、江戸時代中期以来、彦根藩世田谷領20カ村の代官を世襲した大場家の執務所兼住居で、大場代官屋敷とも呼ばれます。大名領の代官屋敷としては都内唯一の存在であり、1952年に都史跡、1978年には近世中期の代表的富裕層民家としての旧態を保存していることから、住宅構造物としては都内初の国の重要文化財に指定されています。



世田谷代官屋敷内部のようす

世田谷代官大場氏とは

大場氏の出自は、相模国の豪族・桓武平氏かんむへいし大庭氏おおばしであるとされています。1180年(治承4年)の「石橋山の戦」にて、大庭景親おおばかげちかが源頼朝の平氏追討軍と戦って敗れたあと、その遺児は三河(現在の愛知県)に逃れ、東条吉良氏とうじょうきらに仕えました。数代を経たのち主家に従って東下し、世田谷の地に定住したといひます。

大場家の始祖とされる大場越後守信久おおばえちこのかみのぶひさは、「吉良四天王」と称される吉良家重臣でしたが、1590年(天正18年)の豊臣秀吉の小田原征伐で吉良氏と姻戚関係のあった北条氏が滅亡した後は、世田谷新宿(現・上町)に留まって帰農しました。

1633年(寛永10年)、世田谷15カ村(のち20カ村)が「彦根藩世田谷領」となった際、代官職には大場氏が取り立てられました。本家の三代・大場六兵衛盛長おおばろくべえもりながが当時まだ幼かったためか、分家の大場市之丞吉隆おおばいちのじょうよしなかが「世田谷代官」に任ぜられました。その後、分家が代官を継ぎ、本家は世田谷村の名主、「世田谷宿」の間屋役などを務めました。七代・大場六兵衛盛政おおばろくべえもりまさから幕末まで、本家が「世田谷代官」となりました。

代官の仕事

代官の職務は、大別すると、地方(じかた)という年貢徴収等の一般事務と、公事方(くじかた)という警察および裁判事務に分けることができます。

世田谷代官も例外ではなく、地方としての年貢の収納に関する場合は、時にはその職を賭さなければならない程の大切な代官の職務でした。

また、公事方として領内の治安にいつも気を配らなければならず、村々の名主・年寄を指揮して防犯や取り締まりに当たったり、変死体の検視、災害場所の見分、市の見回りに出向いたり大忙しだったようです。代官屋敷には、犯罪人捕縛のための「三ツ道具」(突棒・刺股・袖搦)や手鎖が常備されていましたが、仕置権はなく、現在屋敷の西側にある白州跡は主に領内村名主が奉行に謁見する際、使用されました。

これら業務の他、世田谷領が彦根藩主の井伊家により江戸屋敷賄料として与えられた関係で、年中行事や生活上必要な品々(正月のお飾り用の竹木、節句用の餅草・菖蒲、蚊遣り用の杉葉、入浴剤として使用する桃葉等)を井伊家へ調達、

納入すること、土木作業や草刈等に使役される人足、菩提寺・豪徳寺で行われる法要・葬儀の人夫も世田谷領内から徴発しなければならなかったそうです。

参考文献

- 『大場家と代官屋敷 - 世田谷区立郷土資料館テーマ展示解説 -』世田谷区立郷土資料館,1987年
- 『世田谷代官が見た幕末の江戸 - 日記が語るもう一つの維新 -』安藤優一郎[著],角川マガジンス,2013年
- 『史料に見る江戸時代の世田谷』下山照夫[編],岩田書院,1994年
- 『重要文化財 都史跡 世田谷代官屋敷』世田谷区立郷土資料館,2016年



白州跡

『悪代官』は実在したのか！？

「〇〇屋、おぬしも悪よのう。」時代劇や小説を読んだ方なら誰しもが1度は聞いたことのあるフレーズだと思います。では、このような「悪代官」は実在したのでしょうか。結論からいいますと、代官の仕事は「勤方大意」という職務マニュアルのような史料が残されている程、代官当人の裁量は狭く、現代のイメージ程、悪事を働く代官が多かったわけではないようです。例えば、年貢に関しては坪刈という検査を行い、その上で土地柄に応じて課税をするという規定がありました。また、犯罪の刑罰については口書を作成したうえで、勘定所へ決裁を仰がなくては判決の申し渡しはできなかったようです。悪代官のイメージ像はテレビの普及とともに勧善懲悪を好む国民時代劇として定着し、高頻度で登場する代官が最後には罰されるという展開が出来上がったとの一説があります。



参考文献 『代官の日常生活 - 江戸の中間管理職 -』,西沢淳男[著],角川ソフィア文庫,2013年

歴史を学ぼう！

郷土資料館

世田谷代官屋敷と同じ敷地内に隣接する施設で、1964年に開館した都内最古の公立地域博物館です。館内は世田谷区に関する歴史・民俗資料などを多く収集しており「大場家と代官屋敷」に関する展示は常設展となっています。

代官屋敷についてもっと知りたい、調べたいという方はもちろんそれ以外にも世田谷の歴史について学びたいという方は、ぜひ一度訪れてみてください。

開館時間:
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

休館日:
毎週月曜、祝日、年末年始
月曜祝日の場合翌日も

入館料: 無料

所在地:
世田谷区世田谷 1-29-18
上町駅下車徒歩5分



常設展「大場家と代官屋敷」

文化に触れよう！

ボロ市

ボロ市は、12月15・16日と1月15・16日の年2回、2日間ずつ、代官屋敷を中心としたボロ市通りで行われます。その始まりは古く安土桃山時代までさかのぼり、関東地方を支配していた小田原城主北条氏政ほうじょううじまさが世田谷新宿に楽市を開いたことがその起源となっています。その後、北条氏の衰退とともに楽市はなくなりましたが、その伝統は続けられ、近郷の農村の需要を満たす農具市・古着市といった歳の市として、伝統を長く保たれました。

世田谷代官も火の元警備と監督のために列を組み、市場内を見廻って治安の維持にあたったそうです。当時の世田谷代官が見た賑わいを、今もなお感じることでできる区内随一のイベントです。 **今年度は新型コロナウイルス拡大防止のため中止**

第10回 子ども読書リーダー(子ども司書)講座

1日目：7月24日(土)
2日目：7月28日(水)

「子ども読書リーダー(子ども司書)」とは、その名の通り読書における「リーダー」として、学校で読書の大切さや面白さを広め、図書館で本の紹介や読み聞かせの活動などを行う子どもたちのことです。

1日目は日ごろ気になっていることを図書館の本を使って調べる「調べ学習」を行いました。子どもたちの調べたテーマには「オリンピックのひみつ」「進化する書道」「だんご虫とわらじ虫」など様々なものがありました。

2日目は自宅から近い図書館で、「調べ学習」のまとめと発表、および読み聞かせ体験や、本の装備体験、図書館見学などの様々な活動を行いました。



講座1日目
調べ学習の様子



講座1日目
砧会場の丸山先生



講座2日目
模擬おはなし会の様子



講座2日目
熱心におはなしを
聞いています

2日間を通して、「図書館で資料集めをするのが新鮮で楽しかったです。」「初めて子どもたちに読み聞かせをしたので、むずかしかったけれど、きかいがあったらそのコツを活かしてやってみたいと思いました。」「おはなし会は、とっても楽しかったから、またやりたいです。」「本の装備と「ピッ」とやるのが楽しかったです。」などの感想がありました。今年度は46名が本講座を修了しました(対象小学5・6年生)。

*活動の様子を図書館ホームページ内「こどもページ」の「子ども読書リーダー」で紹介しています。

10代のための講演会

池澤春菜さんが語るSF・文学・声優

令和3年8月7日(土)開催

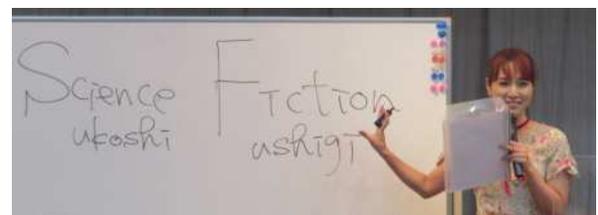
声優・書評家・エッセイストとして活躍されている池澤春菜さんをお招きし、10代の方向けに読書の楽しみや声優について語っていただきました。

池澤さんは幼い頃から、とにかく本を読むことが好きで「学校の図書室にある本を全て読んでしまったから転校したい」とご両親に訴えたこともあったそうです。そんな読書好きが高じて日本SF作家クラブの会長になられたそうです？！

みなさんは「SF」とは何の略だと思いますか？思い浮かぶのは「ScienceFiction」が一般的でしょうか？それも正解！藤子・F・不二雄さんは

「SukoshiFushigi」と表現していたとか。いろいろな表現があって、実は自由で決まりはないそうです。

そして、声優のお仕事について。声優という専門の職業があるのは世界的にも珍しいことだそうです。池澤さんがご自身の小説を朗読してくださったり、質問に答えてくださったりと、盛りだくさんの講演会でした。



『SF』について語る 池澤春菜さん



第十二回 読書の秋の講演会

令和3年9月23日(木)開催

落語と読書



図書館司書の資格を持つ落語家入船亭扇治師匠をお招きしました。感染症拡大防止を踏まえ、去年に引き続き参加者を従来よりも抑えての実施となりました。

今回の演目は、一席目が古典落語「つぼ算」。軽妙な話術で水瓶を値切って買おうとする買い物上手な男の噺です。二席目が新作落語「図書館本紛失事件」。借りた本を無くした男とその妻による本の搜索、弁償のやりとりを面白おかしく展開する噺です。三席目が古典落語をもとに創作した「いただき猫」。小さなもち屋で看板猫を亡くしたおばあさんのために旅人が彫った猫が店を大繁盛させる噺でした。師匠の登場人物になりきった粋な演技と、時折入れる愉快的アドリブに会場からは度々笑いが起こりました。

毎回、落語の後は師匠ご自身のオススメ本を語るトークの時間を設けています。今回は、猫をテーマとした小説、絵本を紹介していただきました。トーク終了後に手に取って読んでいた参加者もあり、大変好評だったようです。参加者からは「元々落語の知識があまりなかった自分でも大いに楽しめた」、「本の紹介を受けて是非借りて読んでみたいと思った」、「猫の古典落語からそのまま猫の本を紹介する流れが面白かった」などの感想がよせられました。



入船亭扇治師匠

ご紹介いただいた本

『旅猫リポート』 有川浩著(文藝春秋・講談社)

『モノレールねこ』 加納朋子著(文藝春秋)

『夏への扉』 ロバート・A・ハインライン著(早川書房)

『100万回生きたねこ』 佐野洋子作・絵(講談社)

『猫語の教科書』 ポール・ギャリコ著 灰島かり訳(筑摩書房)

『図書館ねこデューイ』 ヴィッキー・マイロン著 羽田詩津子訳(早川書房)

夏休み 本の『おたのしみ袋』を実施しました！

昨年度も大人気だった、本の「おたのしみ袋」の貸出を夏休み期間に合わせて行いました。図書館の職員と子ども読書リーダー(子ども司書)がそれぞれのおたのしみ袋にテーマを決めて、1つの袋につき本を2~3冊選びました。

今回は、子ども向けのみならず保護者向けのおたのしみ袋も用意し、親子で楽しめるように工夫。袋にはテーマが書かれた紙が貼ってありますが、どんな本が入っているかは中を開けてからのおたのしみ。全部で165袋用意したおたのしみ袋は4日間ですべて貸し出されました。

皆様からは「普段だと選ばないような本も読んでみるととても面白くとても良い刺激になりました」、「袋を開けるときのドキドキが良かった」などの感想をいただき、大好評でした。

次回もおたのしみに！



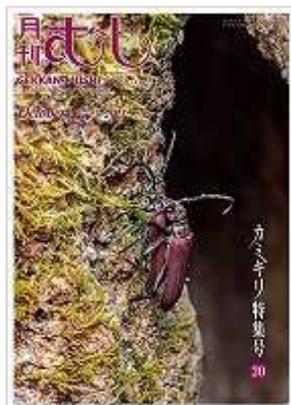
テーマの一例です！どんな絵本が入っていたでしょう？

こんな雑誌があったんだ！ 図書館お宝雑誌

★★★★★コレクション

中央図書館で所蔵している雑誌は約1000タイトル。誰もが知っている雑誌はもちろん、書店では入手困難な専門誌まで多種多彩です。今回は一般にはなじみが薄いけど、興味深い記事が満載の雑誌の一部をご紹介します。図書館で雑誌のお宝みつけてください。

月刊 むし



全国の虫好きに

1971年創刊。虫に関するマニアックな話題と美しい写真が満載です。この雑誌を読めば虫博士になれるかも。

発行: むし社 月刊
(自然科学コーナー)

月刊 住職

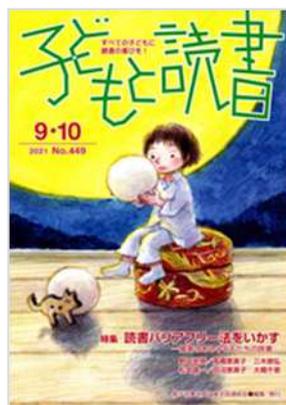


寺院の実務誌

1974年創刊。宗派を超えた実用記事が満載です。2021年8月号の特集は「住職が乗っている車と乗りたい車」

発行: 興山舎 月刊
(人文・社会科学コーナー)

子どもと読書



子どもに読書の喜びを

1971年創刊。子どもに関わる興味深い記事が満載。新刊情報も充実しています。

発行: 親子読書地域文庫
全国連絡会 隔月刊
(児童書研究コーナー)

博物館研究

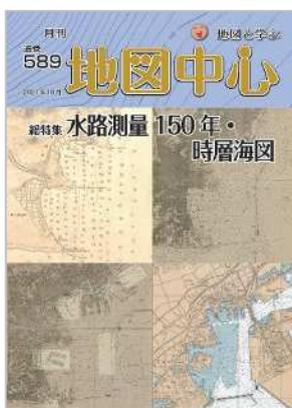


博物館の今がわかる

1976年創刊。注目は全国の展覧会情報。北海道から沖縄まで各地の展覧会・イベント情報が満載。

発行: 日本博物館協会 月刊
(総記雑誌コーナー)

地図中心



地図と学ぶ

地図は場所だけでなく、土地の風景、自然、歴史まで教えてくれます。地図を眺めたいくなる雑誌です。

発行: 日本地図センター 月刊
(人文・社会科学コーナー)

流行色



色の専門情報誌

ファッションからインテリアまでカラートレンド予測情報が満載。幅広い分野のカラーについての話題が満載です。

発行: 日本流行色協会 季刊
(自然科学コーナー)

季刊 しま



離島から日本を見る

1953年創刊。離島の人びとの暮らしや声、出来事が掲載されています。海の香りがする雑誌です。

発行: 日本離島センター 季刊
(人文・社会科学コーナー)

バックナンバーも
読んでみたい!



保存庫を
ご利用ください

中央図書館で購読している多くの雑誌は10年間、地下にある保存庫で保管しています。

バックナンバーをご覧になりたい場合は、保存庫から出納をご依頼ください。詳しくは中央図書館地下レファレンスカウンターでお尋ねください。

ちいさなぬくもり - 66のおはなし -

森本俊司 文 ディック・ブルーナ 絵 ブルーシーブ

ちいさくてふわふわでながいお耳のミッフィーが誕生してから66年がたちました。この本には、生みの親ディック・ブルーナさんとミッフィーの66のおはなしが掲載されています。

例えば、なぜミッフィーはいつも顔が正面を向いているのか、お口が×(バツ)で表現されているのか。また、ブルーナさんの家族や生活の様子等。見開き2ページで1つのお話が、イラストとともに紹介されています。読んでいくと、ミッフィーはブルーナさんの実生活から生まれ、ミッフィーの世界にはブルーナさん自身の思い出が詰まっていることがわかります。

日本では、1964年に『ちいさなうさこちゃん』(福音館書店)として翻訳出版され、「うさこちゃん」として愛され続けています。 【請求記号 7266 フ】



地名で語る「日本の歴史」授業

高橋茂樹 著 黎明書房

旅行した時、珍しい地名に出会い、なぜこのような地名がつけられたのだろうか疑問に思ったことはありませんか。地名は歴史など多くの情報が集約されており、その土地について知る手がかりの一つとなります。

本書によると地名に縄文～明治時代までのその土地の歴史を絡めることで地名の由来を知ることができ、同時に地名からその土地の歴史的背景・地理的特徴などを読み解くことができます。日本の歴史の楽しさを味わいながら、地名と歴史両方に興味を持てること請け合いです。本書を通して、気になる地名があれば、コロナウィルスが落ち着いたあと実際に訪れ、新たな気づきを見つけてください。

【請求記号 2101 た】



新着図書案内

代田のダイダラボッチ巨人伝説読本

北沢川文化遺産保存の会 きむらけん 著
世田谷代田駅 駅前広場開場記念事業実行委員会

世田谷代田の駅前広場が2021年3月に完成しました。ここには代田の地名の由来となったダイダラボッチの足跡がタイルで描かれています。この本では、実際にダイダラボッチの跡を探して歩いたことが書かれています。代田 6 丁目の守山地区会館の北側

には、1955年頃まで水の湧き出す窪地があり、右の足跡と言われていました。実は代田は巨人伝説でこっそり全国的に有名なのです！民俗学者の柳田国男は1920年に巨人伝説調査をした際、最初に代田、野沢、下馬を訪れました。彼はこの調査を「巡礼」と表現しています。はるか昔からの伝説が、日本人とは何か、どこからきたのかに深いつながりがあると考えたのです。足跡のそばにはいつも遺跡がありました。大昔、世田谷の青空を、大きな足で、巨人が行ったり来たりしていたのだな、と想像すると不思議で楽しくなってきますね。 【請求記号 GA9102】



世界の宝石文化史図鑑

- スミソニアン宝石コレクション -
ジェフリー・エドワード・ポスト 著 甲斐理恵子 訳 原書房

スミソニアン博物館 (アメリカ合衆国)の宝石コレクションは、世界最高峰とされ多くの人々が訪れます。コレクションの特徴は、鉱物としての宝石のみならず、技巧を凝らし贅を尽くした宝飾品も多数含まれていることです。しかも、多くが個人の寄贈によるものであるといえます。

この本では、ナポレオン 1 世が皇后マリー・ルイーゼに贈ったダイヤモンドネックレス、持主を不幸にしたと囁かれたホープ・ダイヤモンド、世界最大の 10,363 カラットのアクアマリンに彫刻を施したオベリスク「ドン・ペドロ」などの名品を、豊富なカラー写真とともに紹介しています。併せて宝石の来歴や所有者が寄贈に至るまでの物語も書かれています。古代から現代まで多くの人々を惹きつける宝石の世界をお楽しみください。



【請求記号 7553 ほ】



Information from Setagaya Central Library

図書館からのお知らせ♪



世田谷区家庭読書の日 記念講演会 読む力が未来をひらく

子どもにとって、なぜ読書は大切なのでしょう。翻訳家で評論家の脇明子さんをお迎えして読書が子どもたちの未来にもたらす力についてお話いただきます。



脇明子さん

日時 11月27日(土) 午後2時～4時
会場 教育センター(中央図書館)3階「ぎんが」
講師 脇明子さん(児童文学翻訳家・評論家)
対象 中学生以上で区内在住・在勤・在学の方
申込 11月2日(火)～11月15日(月)までに
 電話またはファクシミリで「せたがやコール」へ

図書館活用講座(中級編) 辞書があると、読書は楽しい。

『三省堂国語辞典』編集委員、国語辞典編纂者としてご活躍されている飯間浩明さんをお迎えし、様々な辞書を手近に置きながら、読書をする楽しみについてお話いただきます。



飯間浩明さん

日時 12月4日(土) 午後2時30分～4時
会場 教育センター(中央図書館)3階「ぎんが」
講師 飯間浩明さん(国語辞典編纂者)
対象 中学生以上で区内在住・在勤・在学の方
申込 11月2日(火)～11月15日(月)までに
 電話またはファクシミリで「せたがやコール」へ

学びのプレゼン講座 自分で調べる技術

身近な疑問点や、解決したい課題を題材に、調べることのコツを、『実践 自分で調べる技術』(岩波書店)の共著者である上田さんにより、わかりやすく解説していただきます。



上田昌文さん

日時 12月12日(日) 午前10時～正午
会場 教育センター(中央図書館)3階「ぎんが」
講師 上田昌文さん(市民科学研究室代表理事)
対象 中学生以上で区内在住・在勤・在学の方
申込 11月15日(月)～11月30日(火)までに
 電子申請で受付 抽選30名

バリアフリー資料が充実しています



「りんごのたな」とは特別なニーズがある子どもにも読書を楽しんでもらいたいという思いからスウェーデンで始まった子ども向けのバリアフリー資料の棚のことです。イギリスの障害児図書館に設置されていた言語障害のある子どものためのりんごのおもちゃが由来となり、名づけられました。

LLブック(本の内容を理解しやすいように写真やビクトグラム等を用いてやさしく、わかりやすく書かれた本)、点字絵本、さわる絵本などが置かれています。お子さまが自分にとって最も読みやすい本の形を見つける手段のひとつとして、ぜひご利用ください。

1階貸出カウンター
正面にあります

毎月23日は世田谷区家庭読書の日
みんなで読書を楽しもう

編集後記

ある土地の歴史を調べる。子どもの頃、学校の授業で行ったときは調べることに、何よりフィールドワークが楽しみで遠足気分であったことを覚えています。現在のコロナ禍では難しいですが、土地の歴史を学び、実際にその土地をめぐるというのは大人になった今でも、休日の楽しみ方の一つであると思います。今回は、世田谷代官屋敷に関する記事を書くにあたり、地域資料をいくつか読みました。本を読んだだけで普段、通勤で歩いている道もなんとなく違った印象を受けるようになりました。こうした読書を通じた経験を日々積み重ね、利用者の皆様に本を読む楽しさをお伝えすることができたらと思います。[I.T.]